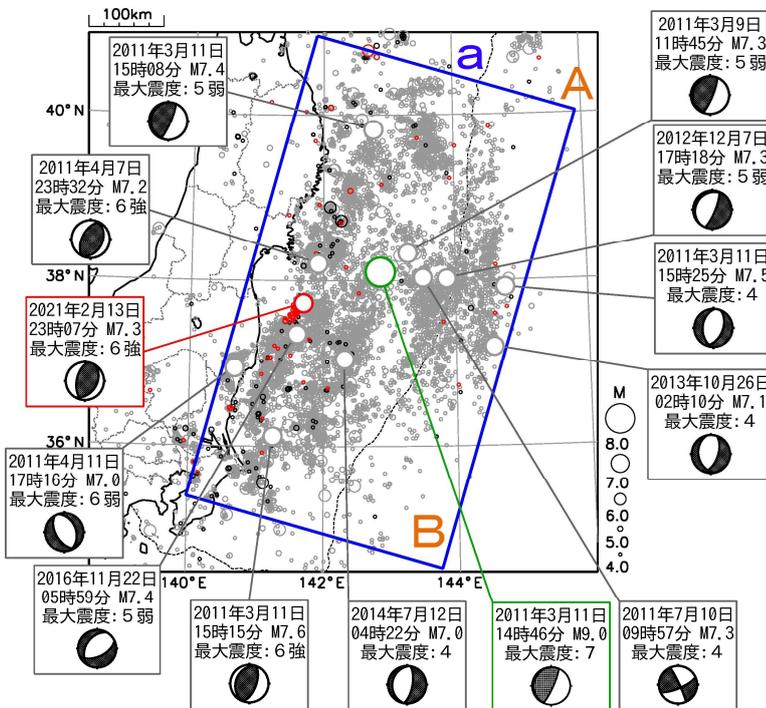


平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震の余震活動

震央分布図

（2011年3月1日～2021年2月28日、深さすべて、 $M \geq 4.0$ ）
 2020年2月以前の地震を薄く、2020年3月～2020年11月の地震を濃く、
 2020年12月～2021年2月の地震を赤く表示。図中の発震機構はCMT解。

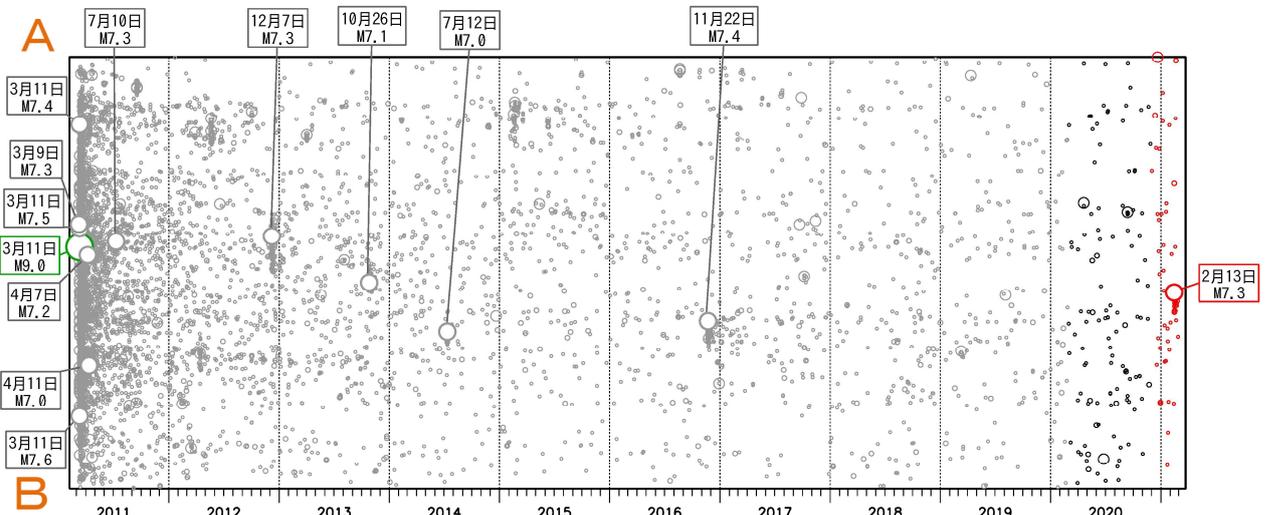


2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の余震回数は次第に少なくなってきたものの、本震発生以前に比べて地震回数の多い状態が継続している。

余震域で発生した $M4.0$ 以上の地震回数は、本震発生後1年間（5,387回）と比べて、9年後からの約1年間（2020年3月11日14時46分～2021年3月6日24時00分:208回）では25分の1以下にまで、時間の経過とともに大局的には減少してきている。しかし、沿岸部、日本海溝軸付近及びその東側では、本震発生前の平均的な地震回数（2001年～2010年の年平均回数：138回）に比べると引き続き地震回数が多い状態にある。

領域 a 内の $M7.0$ 以上の地震、2020年12月～2021年2月の最大規模の地震に吹き出しをつけた。
 吹き出し緑枠の地震は、2011年3月11日 $M9.0$ の本震である。

領域 a 内の地震の時空間分布（A-B 投影）



領域 a 内の地震の月別回数（ $M \geq 4.0$ ）



（参考）
 2001年～2010年の
 $M \geq 4.0$ の地震発生回数
 ... 月平均値：11.5回
 ... 月中央値：9回

東北地方太平洋沖
 地震後の1年間と
 比べて1/25以下